

高校生のキャリア発達に関する研究

A Study on Career Development of High School Students

寿 山 泰 二

要旨

まだ、進路決定できていない高校生のエンプロイアビリティを企業就職能力尺度、生き方尺度、BIG FIVE 尺度を使用して相関分析、分散分析を行い、現代高校生の思考及び行動特性を分析・考察する。さらには、クラスタ分析で就職能力・価値観・性格からタイプ別に分類し、高校生のキャリア発達の現状を把握、今後の課題を探っている。

キーワード：高校生、大学生、キャリア教育、キャリア発達、就職能力・価値観・性格、移行問題

I. 問題と目的

2008 年 3 月に出された中央教育審議会大学分科会制度・教育部会「学士課程教育の在り方に関する小委員会」による『学士課程教育の構築に向けて』（審議のまとめ）において、高等学校から大学への円滑な移行に果たす初年次教育の重要性が指摘された。この報告書は、大学生の「学士力」を要請するものだが、初年次教育を含むキャリア教育の方向性に大きな示唆を与えるものである。

しかし、初年次教育の実態を見たとき、高校を卒業し、大学生となった新入生の学力、意欲の低下は著しいもので、大学 4 年間で上記小委員会が謳う「学士力」を養成するには、困難な状況にあることも事実である。特に、入試の偏差値が低い大学では、補習授業なくして専門教育への移行は非常に難しいものになっている。職業観や社会人基礎力は、一朝一夕で身につくものではない。文科省は、小学校からキャリア教育を実施してこれらの基礎的な知識・能力等を養成してきたはずだが、その効果はほとんど見られない。

本研究の目的は、大学における初年次教育、キャリア教育がより機能するように、大学生になる前の段階である高校生の段階でのキャリア発達の現状と課題を分析・考察することにある。高校生のキャリア発達の現状を認識・把握することが、高校から大学への「移行問題」の改善・解決への道を開くことになると考えられる。

II. 方法

(1)対象

近畿圏の地方都市に所在する A 高校の特別進学コースを除く普通コースを中心とした高校 2 年生。記入漏れや記入ミス等のある 29 名を除いた有効回答数 113 名（男性：104 名、女性：9 名）を分析対象とした。

(2)期間

高校 2 年生になったばかりの 2008 年 4 月に実施した。

(3)質問紙の構成

①企業就職能力尺度(寿山, 2007)全 30 項目、回答は 5 件法。②生き方尺度(板津, 1992)全 28 項目、回答は 5 件法。③BIG FIVE 尺度(和田, 1996)全 60 項目、回答は 7 件法。フェースシートは、卒業後の進路、大学で勉強したい学部、働きたい業種、働きたい職種などの記入欄を設けている。

(4)手続き

普通コースの生徒が全員参加する授業にて、質問紙を配布・回収した。

III. 結果・考察

(1)就職能力・価値観・性格の相関分析

今回の調査した高校 2 年生の分析結果と 2007 年 11 月に同様の調査を実施した A 高校の近隣に所在する B 大学の分析結果(対象：大学 1 年生から大学 4 年生 195 名、内男性 169 名、女性 26 名)とを比較検討して考察してみたい。

まず、今回調査した高校 2 年生の企業就職能力(総合得点)と価値観(生き方)、性格(BIG FIVE)の関係を Pearson の相関係数により検討を行ったところ、他者尊重、情緒不安、誠実性を除いてすべて有意の正の相関を示した。唯一弱い相関が見られた調和性以外は比較的強い相関が見られた(Table 1A)。特に、価値観においては、就職能力と自己創造の関連($r=.69, p<.01$)、性格においては、就職能力と開放性の関連($r=.61, p<.01$)に最も高い相関係数が見られた。

大学生のデータ(Table 1B)と比較すると、就職能力と価値観(生き方)との相関に関しては、高校生も大学生もほとんど差異は見られない。しかし、就職能力と性格(BIG FIVE)との相関に関しては、特徴的な相違点がいくつか見られる。1 つめは、就職能力と開放性の間に、高校生は比較的強い相関が見られたが、大学生は強い相関が見られたこと(Figure 1A, Figure 1B)。2 つめは、就職能力と

情緒不安の間に、高校生は無相関であったが、大学生は有意な負の相関が見られたこと (Figure 2A, Figure 2B)。3 つめは、就職能力と誠実性の間に、高校生は無相関であったが、大学生は有意な正の相関が見られたこと (Figure 3A, Figure 3B)。すなわち、高校生にとって開放性、情緒不安、誠実性に関連する就職能力面からのキャリア発達は、大学生ほどまだ成熟していないということである。特に、有意ではないものの、就職能力と情緒不安の関連が負の相関ではなく、誠実性との関連に負の相関が見られたのは注目される。

Table 1A 高校生の企業就職能力と価値観(生き方)及び性格(BIG FIVE)の下位尺度間相関

就職能力	価値観(生き方)						性格(BIG FIVE)				
	就職能力	能動実践	自己創造	自他共存	無執着心	他者尊重	外向性	情緒不安	開放性	誠実性	調和性
就職能力	—	.62 **	.69 **	.64 **	.56 **	.18	.40 **	.05	.61 **	-.07	.32 **
能動実践		—	.84 **	.76 **	.53 **	.32 **	.26 **	.30 **	.52 **	-.05	.22 *
自己創造			—	.74 **	.59 **	.29 **	.41 **	.26 **	.61 **	-.20 *	.27 **
自他共存				—	.60 **	.50 **	.48 **	.21 *	.48 **	-.06	.42 **
無執着心					—	.40 **	.36 **	-.17	.35 **	-.05	.35 **
他者尊重						—	.27 **	.06	.18	.04	.43 **
外向性							—	-.25 **	.32 **	-.18	.40 **
情緒不安								—	.32 **	-.25 **	-.10
開放性									—	-.29 **	.06
誠実性										—	.23 *
調和性											—

* p<.05 ** p<.01

Table 1B 大学生の企業就職能力と価値観(生き方)及び性格(BIG FIVE)の下位尺度間相関

就職能力	価値観(生き方)						性格(BIG FIVE)				
	就職能力	能動実践	自己創造	自他共存	無執着心	他者尊重	外向性	情緒不安	開放性	誠実性	調和性
就職能力	—	.61 **	.69 **	.61 **	.59 **	.16 *	.49 **	-.32 **	.71 **	.27 **	.34 **
能動実践		—	.71 **	.68 **	.45 **	.27 **	.53 **	-.25 **	.53 **	.21 **	.43 **
自己創造			—	.61 **	.57 **	.18 *	.48 **	-.33 **	.59 **	.18 *	.31 **
自他共存				—	.43 **	.46 **	.50 **	-.10	.49 **	.23 **	.53 **
無執着心					—	.27 **	.37 **	-.52 **	.39 **	.15 *	.32 **
他者尊重						—	.16 *	.02	.01	.03	.38 **
外向性							—	-.45 **	.50 **	.18 *	.37 **
情緒不安								—	-.12	-.33 **	-.31 **
開放性									—	.06	.12
誠実性										—	.31 **
調和性											—

* p<.05 ** p<.01

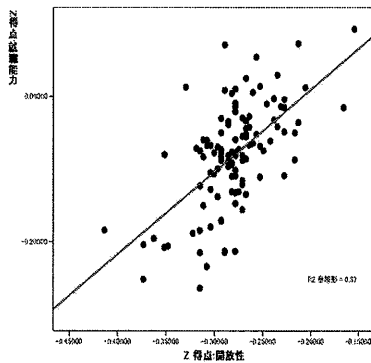


Figure 1A 就職能力と開放性の相関 (高校生)

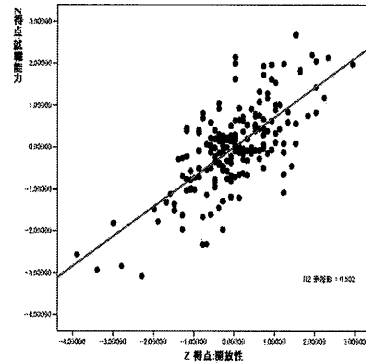


Figure 1B 就職能力と開放性の相関 (大学生)

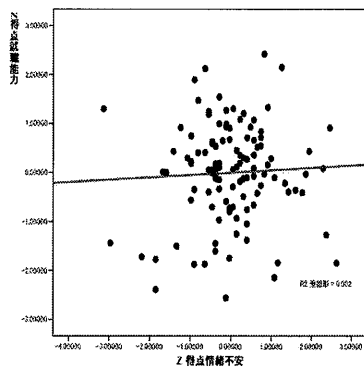


Figure 2A 就職能力と情緒不安の相関 (高校生)

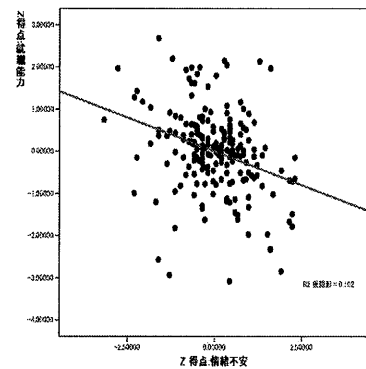


Figure 2B 就職能力と情緒不安の相関 (大学生)

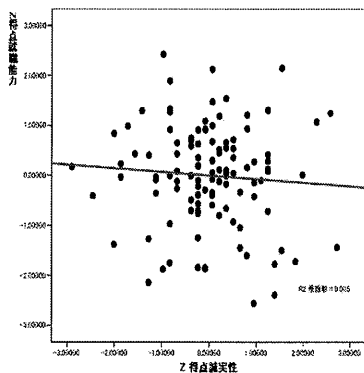


Figure 3A 就職能力と誠実性の相関 (高校生)

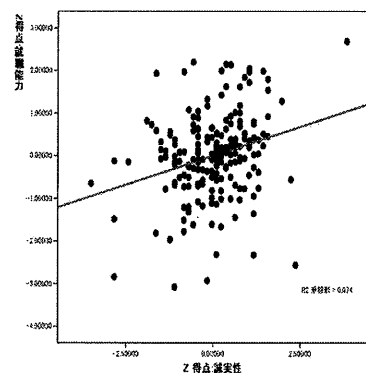


Figure 3B 就職能力と誠実性の相関 (大学生)

次に、企業就職能力の下位尺度と価値観(生き方)の下位尺度の相関を詳細に検討したところ、創造力と他者尊重、行動力と他者尊重、適応力と他者尊重、情報力と他者尊重、論理力と他者尊重がほぼ無相関であった以外は、すべて有意の正の相関を示した(Table 2A)。特に、行動力と能動実践の関連($r=.69, p<.01$)、行動力と自己創造の関連($r=.69, p<.01$)に比較強い相関が見られた。

企業就職能力(総合得点)で最も高い相関係数が見られた自己創造だが、下位尺度の4つの能力(創造力、行動力、情報力、論理力)において最も高い相関係数が見られた。したがって、自己創造が価値観(生き方)の中で、最も就職能力に影響を及ぼす重要な価値観(生き方)と思われる。

大学生のデータ(Table 2B)と比較すると、就職能力の下位尺度と価値観(生き方)との相関は、企業就職能力(総合得点)と価値観(生き方)の相関と同様に、高校生と大学生の相関係数に大きな差異は見られない。価値観(生き方)から形成される就職能力への影響は、就職能力のレベルは別にして、高校生も大学生もそれほど変わらないと思われる(Figure 4A, Figure 4B)。

Table 2A 高校生の企業就職能力及び価値観(生き方)の下位尺度間相関

	就職能力							価値観(生き方)				
	創造力	行動力	適応力	情報力	論理力	傾聴力	常識力	能動実践	自己創造	自他共存	無執着心	他者尊重
創造力	-	.71 **	.68 **	.65 **	.50 **	.30 **	.39 **	.45 **	.59 **	.42 **	.40 **	.01
行動力		-	.59 **	.51 **	.43 **	.35 **	.44 **	.69 **	.69 **	.58 **	.47 **	.16
適応力			-	.62 **	.41 **	.32 **	.42 **	.43 **	.52 **	.53 **	.64 **	.14
情報力				-	.44 **	.30 **	.38 **	.35 **	.44 **	.44 **	.29 **	.08
論理力					-	.21 *	.25 **	.30 **	.35 **	.27 **	.33 **	.13
傾聴力						-	.49 **	.37 **	.32 **	.42 **	.29 **	.20 *
常識力							-	.55 **	.56 **	.57 **	.40 **	.23 *
能動実践								-	.84 **	.76 **	.53 **	.32 **
自己創造									-	.74 **	.59 **	.29 **
自他共存										-	.60 **	.51 **
無執着心											-	.40 **
他者尊重												-

* $p<.05$ ** $p<.01$

Table 2B 大学生の企業就職能力及び価値観(生き方)の下位尺度間相関

	就職能力							価値観(生き方)				
	創造力	行動力	適応力	情報力	論理力	傾聴力	常識力	能動実践	自己創造	自他共存	無執着心	他者尊重
創造力	-	.68 **	.58 **	.58 **	.56 **	.24 **	.44 **	.44 **	.59 **	.41 **	.41 **	.05
行動力		-	.65 **	.59 **	.49 **	.24 **	.46 **	.65 **	.69 **	.56 **	.48 **	.05
適応力			-	.51 **	.43 **	.32 **	.38 **	.54 **	.59 **	.48 **	.66 **	.18 *
情報力				-	.58 **	.25 **	.51 **	.45 **	.51 **	.39 **	.39 **	.08
論理力					-	.24 **	.38 **	.38 **	.43 **	.30 **	.36 **	-.02
傾聴力						-	.47 **	.27 **	.30 **	.48 **	.31 **	.24 **
常識力							-	.42 **	.39 **	.53 **	.36 **	.25 **
能動実践								-	.71 **	.68 **	.45 **	.27 **
自己創造									-	.61 **	.57 **	.18 *
自他共存										-	.43 **	.46 **
無執着心											-	.27 **
他者尊重												-

* $p<.05$ ** $p<.01$

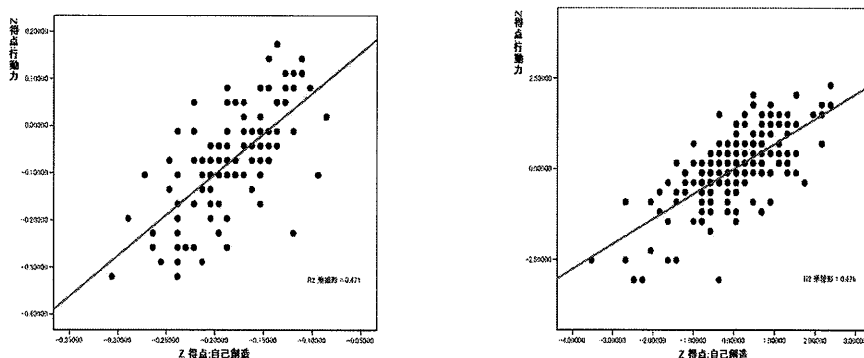


Figure 4A 行動力と自己創造の相関（高校生） Figure 4B 行動力と自己創造の相関（大学生）

また、企業就職能力の下位尺度と性格(BIG FIVE)の下位尺度の相関を検討してみると、開放性が企業就職能力のすべての下位尺度と有意の正の相関を示した一方、情緒不安と誠実性の一部に負の相関が見られた(Table 3A)。企業就職能力(総合得点)と最も高い相関係数が見られた開放性は、下位尺度で6つの能力(創造力、行動力、適応力、情報力、論理力、常識力)で最も高い相関係数であった。性格(BIG FIVE)の中で、最も就職能力に影響を及ぼすのはやはり開放性と言えそうである。

大学生のデータ(Table 3B)と比較すると、就職能力の下位尺度と性格(BIG FIVE)との相関において、情緒不安と誠実性に相違点がある。情緒不安に関しては、大学生は各就職能力と有意の負の相関が見られた。特に、適応力との関連においては、1%水準で有意な比較的強い負の相関が見られるのに対し、高校生の方は、唯一適応力との関連に5%水準で弱い負の相関が見られるだけである(Figure 5A, Figure 5B)。情緒の安定から形成されるストレスコントロールは、まだ高校生の段階では社会的に適応するところまで身につけていないと考えられる。誠実性に関しては、情報力の関連において、大学生は1%水準で有意な弱い正の相関が見られるのに対し、高校生は情報力に5%水準で有意な弱い負の相関が見られる(Figure 6A, Figure 6B)。

Table 3A 高校生の企業就職能力及び性格(BIG FIVE)の下位尺度間相関

	就職能力							性格 (BIG FIVE)				
	創造力	行動力	適応力	情報力	論理力	傾聴力	常識力	外向性	情緒不安	開放性	誠実性	調和性
創造力	-	.71 **	.68 **	.65 **	.50 **	.30 **	.39 **	.34 **	.02	.64 **	-.16	.13
行動力		-	.59 **	.51 **	.43 **	.35 **	.44 **	.39 **	.06	.50 **	-.15	.20 *
適応力			-	.62 **	.41 **	.32 **	.42 **	.42 **	-.21 *	.45 **	-.05	.36 **
情報力				-	.44 **	.30 **	.38 **	.20 *	.17	.55 **	-.23 *	.17
論理力					-	.21 *	.25 **	.08	.00	.32 **	.01	.07
傾聴力						-	.49 **	.16	.12	.19 *	.22 *	.34 **
常識力							-	.42 **	.12	.45 **	-.02	.38 **
外向性								-	-.25 **	.32 **	-.18	.40 **
情緒不安									-	.32 **	-.25 **	-.10
開放性										-	-.29 **	.06
誠実性											-	.23 *
調和性												-

* p<.05

** p<.01

Table 3B 大学生の企業就職能力及び性格(BIG FIVE)の下位尺度間相関

	就職能力							性格(BIG FIVE)				
	創造力	行動力	適応力	情報力	論理力	傾聴力	常識力	外向性	情緒不安	開放性	誠実性	調和性
創造力	-	.68 **	.58 **	.58 **	.56 **	.24 **	.44 **	.49 **	-.24 **	.74 **	.10	.15 *
行動力		-	.65 **	.59 **	.49 **	.24 **	.46 **	.57 **	-.31 **	.65 **	.24 **	.24 **
適応力			-	.51 **	.43 **	.32 **	.38 **	.45 **	-.52 **	.51 **	.21 **	.39 **
情報力				-	.58 **	.25 **	.51 **	.28 **	-.19 **	.56 **	.23 **	.18 *
論理力					-	.24 **	.38 **	.14 *	-.15 *	.47 **	.22 **	.08
傾聴力						-	.47 **	.19 **	-.07	.24 **	.20 **	.34 **
常識力							-	.41 **	-.13	.46 **	.21 **	.37 **
外向性								-	-.45 **	.50 **	.18 *	.37 **
情緒不安									-	-.12	-.33 **	-.31 **
開放性										-	.06	.12
誠実性											-	.31 **
調和性												-

* p<.05

** p<.01

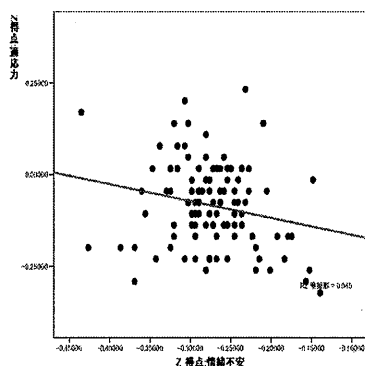


Figure 5A 適応力と情緒不安の相関 (高校生)

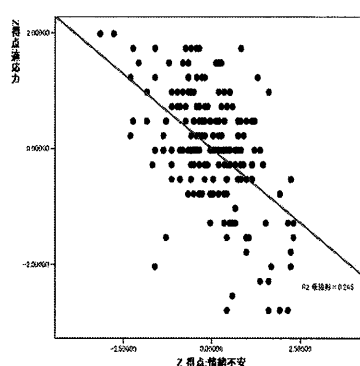


Figure 5B 適応力と情緒不安の相関 (大学生)

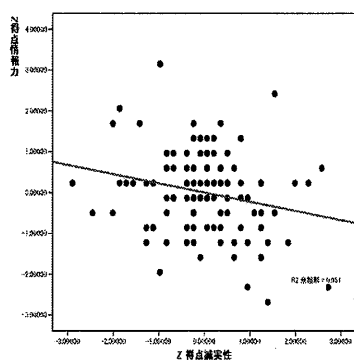


Figure 6A 情報力と誠実性の相関 (高校生)

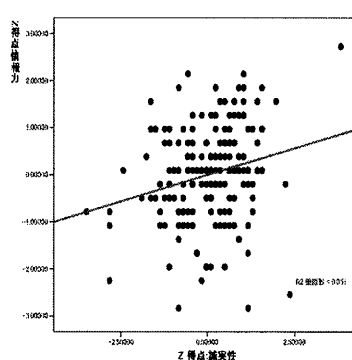


Figure 6B 情報力と誠実性の相関 (大学生)

さらに、価値観(生き方)と性格(BIG FIVE)のそれぞれの下位尺度間の相関を検討すると、誠実性に自己創造と弱い負の相関が見られた以外は、無相関が示された(Table 1A)。また、情緒不安と能動実践、自己創造、自他共存に弱い正の相関が見られたのも特徴的である。

大学生のデータ(Table 1B)と比較すると、上記特徴が際立っている。大学生は誠実性に関しては、すべて正の相関があり、能動実践と自他共存に1%水準で有意な弱い正の相関が見られる。自主性や協力性が高くなれば誠実性・勤勉性は高まると考えられるのだが、高校生は自己創造に対し、5%水準で有意な弱い負の相関が見られた。これは自己創造の意欲はあるが、誠実・勤勉であることを望まない生徒が多いからと思われる。いずれにしても、誠実性が欠けていることは間違いのない事実である。情緒不安に関しては、大学生は情緒不安と各価値観がほぼ負の相関、それも無執着心に関しては、1%水準で比較的強い負の相関になっているのに対し、高校生はほぼ正の相関で無執着心との関連では、負の相関になったものの有意ではなかった。情緒不安と能動実践、自己創造、自他共存が、正の相関になっていることに発達心理学の観点から注目したい(Figure 7A)。つまり、能動実践、自己創造、自他共存が高くなると情緒不安も高くなるのである。これは前向きに進もうとすればするほど不安が募るということである。まだ、自分への自信が確立されず、将来に対する不安の多い思春期の特徴とも思われる。大学生になると、能動実践、自己創造、自他共存が高くなると情緒不安は低くなる傾向にある(Figure 7B)。大学入試という1つのハードルを越え、自由性が高まる大学生活でアイデンティティが少しずつ確立しているのであろう。情緒の安定は、無執着心という価値観を持つことにより適応力という就職能力に結びつくと考えられる。高校生の段階ではキャリア発達に欠かせない無執着心の持つ重要性にまだ意味を見出せないのは致し方のないことと思われる。

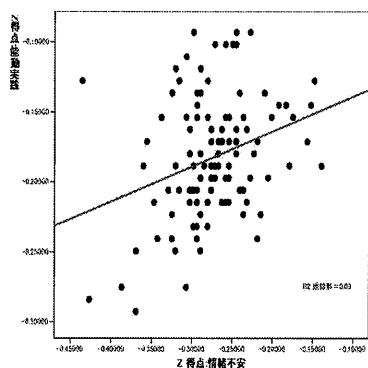


Figure 7A 能動実践と情緒不安の相関 (高校生)

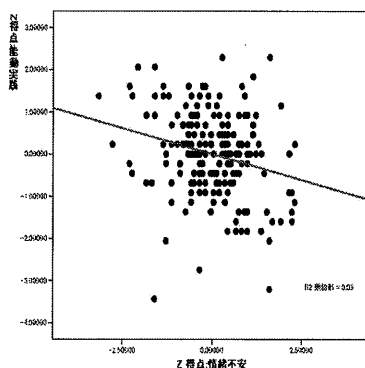


Figure 7B 能動実践と情緒不安の相関 (大学生)

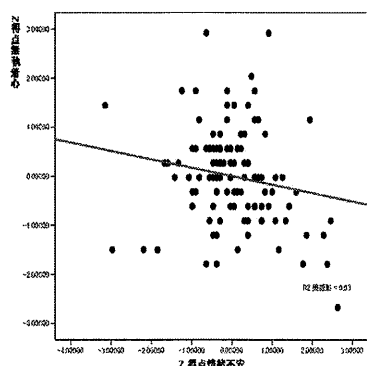


Figure 8A 無執着心と情緒不安の相関（高校生）

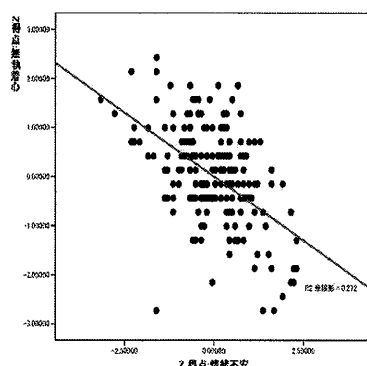


Figure 8B 無執着心と情緒不安の相関（大学生）

最後に、価値観(生き方)の下位尺度間並びに性格(BIG FIVE)の下位尺度間の相関(Table 1A)であるが、価値観(生き方)については、特に、能動実践と自己創造の関連($r=.84, p<.01$)、能動実践と自他共存の関連($r=.76, p<.01$)、自己創造と自他共存の関連($r=.74, p<.01$)に強い相関が見られた。一方、性格(BIG FIVE)は、特に、外向性と開放性の関連($r=.32, p<.01$)、外向性と調和性の関連($r=.40, p<.01$)、情緒不安と開放性の関連($r=.32, p<.01$)に弱い正の相関が、外向性と情緒不安の関連($r=-.25, p<.01$)、情緒不安と誠実性の関連($r=-.25, p<.01$)、開放性と誠実性の関連($r=-.29, p<.01$)に弱い負の相関が見られた。

大学生のデータ(Table 1B)と比較すると、高校生の方が価値観(生き方)は、上記の能動実践、自己創造、自他共存の相関係数が高く出ている。しかし、性格(BIG FIVE)は、大学生とは大きく相違し、情緒不安が開放性と正の相関、開放性は誠実性と負の相関が見られた。情緒不安と開放性の関連については、知的好奇心が高まれば高まるほど不安も高まるのは思春期特有の心理かもしれない。開放性と誠実性の関連については、知的好奇心が高まれば高まるほど誠実性が低くなるのは、真面目に努力をするよりも、できる限り楽をして事を達成したい気持ちの強い現れではないかと思われる。

(2) 就職能力・価値観・性格の t 検定及び分散分析

普通コースに在籍する生徒も進路別に大きく進学・就職コース(A, B, C)、進学情報コース(D)、進学文系コース(E, F)の3分類6クラスに編成されている。進学・就職コースは、特にクラブ活動に考慮したコースで、就職でも進学でも選択できるプログラムを持っている。進学情報コースは、特にパソコンを活用して情報処理等資格の取得から就職・進学を目指すプログラムを持っている。進学文系コースは、クラブ活動と進学の両立を目指し、特に文系学部への進学を考慮したプログラムを持っている。まずは、高校生と大学生の企業就職能力、価値観(生き方)、性格(BIG FIVE)の平均値差の比較検討(t検定)を行い、高校生のクラス別分散分析により各コース、各クラスの特徴を分析・考察することにした。

高校生と大学生の各尺度平均値の比較であるが、就職能力に有意差が見られたが、価値観(生き方)、性格(BIG FIVE)には有意差が見られなかった(Table 4)。高校生の就職能力の総合得点は、21.09 と数字的にはほぼ平均点だが、大学生の 22.58 に比べると相対的に低い得点結果である。就職能力の下位尺度を見ても、大学生が 2 点台だったのは、論理力(2.81)だけだが、高校生は創造力、適応力、情報力、論理力と 2 点台が 4 能力もあった。高校生は自ら「考える力」が不足していることを自覚している一方、3 点台の行動力、傾聴力、常識力については、少し自信を持っているようである。

高校生の価値観(生き方)は、無執着心の数値が他の価値観に比べやや低いものの、すべての尺度で 3 点を上回っており、平均点を超えている。大学生においても、数値では若干高校生を上回るものの、同様の結果が見られている。高校生の性格(BIG FIVE)だが、外向性が総じて高い反面、情緒不安も高く、思春期の揺れ動きの激しい心理状態が見られる。また、唯一 3 点台であった誠実性が低いのが特徴である。ただ、大学生の数値も高校生とそれほど差はなかった。青年期の若者の持つ価値観(生き方)、性格(BIG FIVE)に共通要素が多々あることが検証された。しかし、大学生と比較して高校生はキャリア発達面から見て就職能力がそれほど身についていない。これは、まだ将来に対する明確な夢・目標の設定ができていないため、それらに向けて努力して諸能力を獲得するところまで発展していないからと思われる。

Table 4 高校生と大学生の各下位尺度平均値とSD及びt検定の結果

	高校生N=113		大学生N=195		t値
	平均	SD	平均	SD	
創造力	2.91	0.75	3.10	0.75	2.15 *
行動力	3.17	0.73	3.28	0.75	1.26
適応力	2.95	0.72	3.22	0.80	3.02 **
情報力	2.87	0.55	3.14	0.68	3.71 ***
論理力	2.50	0.66	2.81	0.76	3.64 ***
傾聴力	3.14	0.66	3.48	0.77	3.95 ***
常識力	3.56	0.65	3.55	0.63	0.13
就職能力	21.09	3.44	22.58	3.75	3.45 **
能動実践	3.53	0.70	3.57	0.62	0.54
自己創造	3.32	0.75	3.40	0.68	0.91
自他共存	3.61	0.73	3.73	0.67	1.36
無執着心	3.02	0.68	3.10	0.70	1.06
他者尊重	3.33	0.62	3.43	0.59	1.35
外向性	4.50	0.79	4.45	0.97	0.43
情緒不安	4.46	0.97	4.38	1.07	0.63
開放性	4.14	0.88	4.32	0.83	1.73
誠実性	3.97	0.56	3.94	0.63	0.40
調和性	4.39	0.71	4.49	0.75	1.15

* p<.05

** p<.01

*** p<.001

コース別に見ると、就職能力面からは、進学・就職コースの2クラスが平均値より1ポイント低く、逆に、進学文系コースは平均値より1ポイント高い(Figure 9A)。価値観(生き方)を見ても、就職能力に大きく関連する能動実践、自己創造、自他共存の数値は、進学・就職コースは低く、進学情報コースと進学文系コースは高い(Table 5A)。これは、上述したとおり、将来の進路がすでに明確であるか、進路に向けて努力をしているかによる差が出ているものと思われる。性格(BIG FIVE)面からは、外向性と開放性が低いのが進学・就職コース、高いのが進学文系コースである。逆に、情緒不安が高いのが、進学情報コース及び進学文系コース、低いのが進学・就職コースである。将来に対する不安傾向は、進学情報コース、進学文系コースの方が高い。注目すべきは、誠実性である。平均値より高いのが、進学・就職コースで、低いのが進学文系コースである。これは、クラブ活動で身につけたものが誠実性に影響を及ぼしていると思われる。

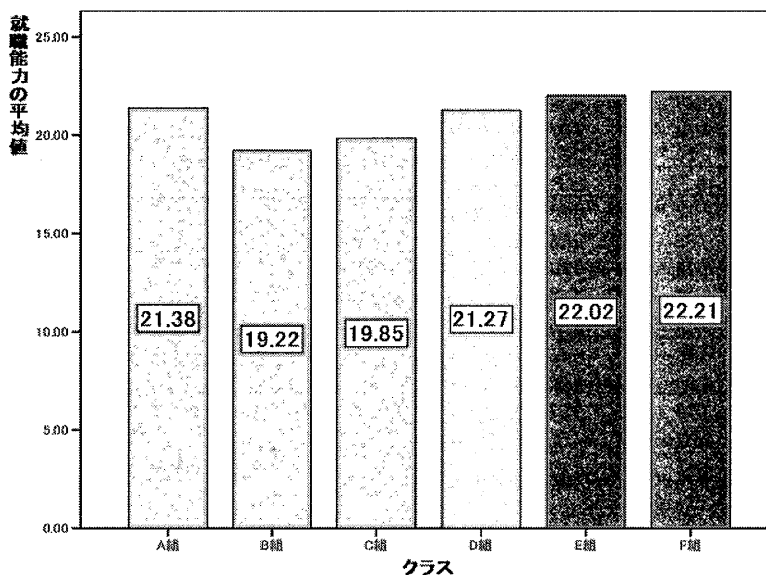


Figure 9A クラス別就職能力 (高校生)

より詳細にクラス別に見ると、進路・就職コースのA組(21人中6人が記入漏れ、有効回答率71.4%)の特徴は、就職能力の総合得点は、平均値以上だが、下位尺度では情報力や傾聴力は平均を上回るが、行動力につながっていない。価値観(生き方)は、全般的に平均値を下回っている。性格(BIG FIVE)は、外向性が最も低いこと、情緒不安が最も高いこと。これらが行動力に直接結びつかない要因と思われる。同じく進路・就職コースのB組(22人中6人が記入漏れ、有効回答率72.7%)の特徴は、就職能力の総合得点は最も低い。特に、論理力の低さが目につく。いわゆる「考える力」が平均値を大幅に下回っている。価値観(生き方)の数値もすべて平均値を下回り、能動性や創造性が物足りない

ように思われる。性格(BIG FIVE)は、外向性は平均的だが、開放性は低い。知的好奇心が欠けている。一方、情緒不安は最も低く、情緒は逆に安定傾向にある。将来をそれほど心配していないというよりも考えていないように思われる。同じく進路・就職コースのC組(29人中12人が記入漏れ、有効回答率 58.6%)の特徴は、就職能力の総合得点は、B組に続いて低く、10点台となっている。下位尺度では、行動力が学年で最も低い。価値観(生き方)は、自己創造が唯一2点台と最も低く、無執着心も最も低い。こだわりが他クラスよりも少しあるようである。性格(BIG FIVE)は、開放性が最も低く、知的好奇心があまり見られない。B組より就職能力は高いが、肝心の意欲、向上心が見られないところに問題がありそうである。

Table 5A 高校生のクラス別各下位尺度の平均値とSD及び分散分析の結果

	A組 N=15		B組 N=16		C組 N=17		D組 N=23		E組 N=21		F組 N=21		合計 N=113		F値
	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	
創造力	3.07	0.71	2.73	0.95	2.61	0.91	2.90	0.70	3.10	0.67	2.98	0.52	2.91	0.75	1.18
行動力	2.99	0.61	2.90	0.95	2.84	0.77	3.22	0.61	3.40	0.69	3.50	0.58	3.17	0.73	2.83 *
適応力	2.93	0.53	2.78	0.80	2.82	0.88	2.86	0.71	3.17	0.67	3.06	0.71	2.95	0.72	0.85
情報力	3.01	0.55	2.66	0.56	2.84	0.75	2.81	0.39	2.96	0.53	2.94	0.52	2.87	0.55	0.92
論理力	2.53	0.46	2.20	0.66	2.43	0.70	2.57	0.56	2.45	0.81	2.74	0.65	2.50	0.66	1.33
傾聴力	3.31	0.53	2.73	0.81	2.94	0.69	3.29	0.62	3.32	0.62	3.13	0.58	3.14	0.66	2.41 *
常識力	3.53	0.60	3.23	0.89	3.37	0.74	3.62	0.39	3.62	0.72	3.87	0.41	3.56	0.65	2.27
就職能力	21.38	2.82	19.22	4.47	19.85	4.25	21.27	2.95	22.02	2.89	22.21	2.61	21.09	3.44	2.30
能動実践	3.54	0.56	3.12	0.78	2.95	0.63	3.70	0.62	3.71	0.64	3.93	0.55	3.53	0.70	6.60 ***
自己創造	3.27	0.64	3.02	0.70	2.61	0.75	3.48	0.63	3.49	0.75	3.82	0.52	3.32	0.75	7.40 ***
自他共存	3.39	0.55	3.25	0.66	3.01	0.61	3.82	0.71	3.86	0.74	4.08	0.48	3.61	0.73	7.77 ***
無執着心	2.92	0.48	2.96	0.73	2.69	0.61	3.19	0.72	3.10	0.82	3.11	0.58	3.02	0.68	1.33
他者尊重	3.13	0.41	3.25	0.52	3.12	0.57	3.53	0.63	3.23	0.71	3.61	0.64	3.33	0.62	2.35 *
外向性	3.96	0.49	4.48	0.82	4.33	0.83	4.56	0.89	4.62	0.74	4.85	0.69	4.50	0.79	2.73 *
情緒不安	4.74	1.02	3.90	0.97	4.00	1.11	4.64	0.82	4.73	0.86	4.56	0.85	4.46	0.97	2.83 *
開放性	4.28	1.07	3.79	1.01	3.69	1.21	4.27	0.69	4.08	0.46	4.63	0.53	4.14	0.88	3.19 *
誠実性	4.07	0.48	3.97	0.64	4.05	0.57	4.07	0.43	3.86	0.62	3.82	0.64	3.97	0.56	0.76
調和性	4.33	0.58	4.41	0.74	4.42	0.72	4.39	0.87	4.45	0.76	4.37	0.60	4.39	0.71	0.06

* p<.05 *** p<.001

進学情報コースのD組(24人中1人が記入漏れ、有効回答率 95.8%)の特徴は、就職能力の総合得点は平均的だが、下位尺度の傾聴力、常識力が若干平均値を上回っているが、適応力の低さが気になる。価値観(生き方)の数値は、すべて平均以上で比較的に能動性があり、進学・就職コースで低かった他者尊重も見られる。性格(BIG FIVE)は、外向性以上に情緒不安が高く、非常に傷つきやすい生徒が多いように思われる。開放性は、平均以上でパソコンという対物への知的好奇心は見られるのだが、対人に関する情緒不安がその根底に存在するのかもしれない。進学文系コースのE組(25人中4人が記入漏れ、有効回答率 84.0%)の特徴は、就職能力の総合得点は平均以上だが、論理力が平均以下で客観性に欠けている。価値観(生き方)は、能動的ではあるが、自己創造がそれほど高くない。将来の方向性がまだ明確になっていない可能性が高い。他者尊重が平均以下で自己中心的な側面も見られる。性格(BIG FIVE)は、D組と同様に外向性よりも情緒不安が高く、

壁にぶつかりと落ち込みが激しいと予想される。進学文系コースの F 組(21 人中記入漏れなし、有効回答率 100%)の特徴は、就職能力の総合得点が最も高く、行動力も最も高い。ただ、傾聴力が平均的で人の話や意見等を積極的に聴く方ではないと思われる。価値観(生き方)は、非常に能動的、創造的である。傾聴力は平均的だったが、他者との関わりは意識しているようである。性格(BIG FIVE)は、外向性が非常にあるが、少し神経症的な面を持っている。開放性が高く、誠実性が低い。つまり、知的好奇心はあるが、勤勉性はやや欠けるところが課題と思われる。

行動力($F(5, 107)=2.83, p<.05$)、傾聴力($F(5, 107)=2.41, p<.05$)、能動実践($F(5, 107)=6.60, p<.001$)、自己創造($F(5, 107)=7.40, p<.001$)、自他共存($F(5, 107)=7.77, p<.001$)、外向性($F(5, 107)=2.73, p<.05$)、情緒不安($F(5, 107)=2.83, p<.05$)、開放性($F(5, 107)=3.19, p<.05$)に有意差が見られる。多重比較(Tukey HSD 法)を行ったところ、能動実践と自己創造は、B 組と F 組が 1%水準、C 組と D 組、C 組と E 組が 1%水準、C 組と F 組が 0.1%水準で有意差が見られた。自他共存は、A 組と F 組が 5%水準、B 組と F 組が 1%水準、C 組と D 組、C 組と E 組が 1%水準、C 組と F 組が 0.1%水準で有意差が見られた。外向性は、A 組と F 組が 1%水準で有意差が見られた。開放性は、B 組と F 組、C 組と F 組が 5%水準で有意差が見られた。

有意差が見られた就職能力、価値観(生き方)、性格(BIG FIVE)を検討してみると、就職能力や性格よりも価値観(生き方)による差が歴然と出ている。これは、生徒が自らの価値観(生き方)に沿って、各コースの特徴を踏まえた進路選択をしているとも考えられる。しかしながら、教育側が留意すべき点は、能力、価値観、性格を十分に考慮したカリキュラムを実施するだけでなく、定期的に各コースの生徒たちに進路選択、職業観や就職能力の育成であるキャリア発達面を十分に把握するために、個別・集団カウンセリングを積極的に行い、明確な将来の夢・目標を設定し、支援することである。個々のモチベーションを高め、自立・自律を促す進路指導ができれば、大学入学後の初年次教育への移行問題で生徒がつまづくこともないと思われる。

社会人基礎力の 12 の能力要素(主体性、働きかけ力、実行力、課題発見力、計画力、創造力、発言力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力)で自信のある能力要素(強み)を回答してもらい、3 分類(前に踏み出す力:アクション、考え抜く力:シンキング、チームで働く力:チームワーク)したものを分散分析したところ、開放性($F(2, 110)=3.40, p<.05$)のみ有意差が見られた(Table 6A)。多重比較(Tukey HSD 法)を行ったところ、アクションとシンキングに 5%水準で有意差が見られた。

大学生のデータ(Table 6B)は、行動力($F(2, 192)=4.51, p<.05$)、自己創造($F(2, 192)=4.43, p<.05$)、他者尊重($F(2, 192)=3.79, p<.05$)、外向性($F(2, 192)=7.16, p<.01$)、調和性($F(2, 192)=3.14, p<.05$)が有意であった。多重比較(Tukey HSD 法)を行ったところ、行動力は、アクションとチームワークが 1%水準、自己創造と他者尊重は、アクションとチームワークが 5%水準、外向性は、アクションとシンキングが 5%水準、アクションとチームワークが 1%水準で有意差が見られた。

Table 6A 高校生の社会人基礎力3分類別(強み)各下位尺度の平均値とSD及び分散分析の結果

	アクションN=39		シンキングN=30		チームワークN=44		合計N=113		F値
	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	
創造力	2.89	0.73	3.13	0.67	2.77	0.79	2.91	0.75	2.21
行動力	3.12	0.80	3.39	0.58	3.06	0.74	3.17	0.73	2.03
適応力	2.98	0.67	3.00	0.71	2.88	0.78	2.95	0.72	0.34
情報力	2.82	0.57	2.95	0.46	2.87	0.59	2.87	0.55	0.45
論理力	2.47	0.65	2.62	0.55	2.44	0.74	2.50	0.66	0.66
傾聴力	3.13	0.63	3.30	0.58	3.03	0.73	3.14	0.66	1.49
常識力	3.59	0.61	3.62	0.70	3.50	0.67	3.56	0.65	0.36
就職能力	21.01	3.40	22.01	2.64	20.55	3.87	21.09	3.44	1.66
能動実践	3.52	0.71	3.61	0.59	3.48	0.78	3.53	0.70	0.34
自己創造	3.32	0.71	3.38	0.74	3.28	0.81	3.32	0.75	0.15
自他共存	3.56	0.68	3.72	0.69	3.59	0.80	3.61	0.73	0.45
無執着心	3.13	0.69	3.05	0.69	2.90	0.66	3.02	0.68	1.21
他者尊重	3.29	0.58	3.45	0.63	3.29	0.65	3.33	0.62	0.72
外向性	4.39	0.69	4.68	0.66	4.48	0.94	4.50	0.79	1.18
情緒不安	4.24	0.89	4.58	0.80	4.56	1.12	4.46	0.97	1.46
開放性	3.93	0.79	4.47	0.58	4.12	1.06	4.14	0.88	3.40 *
誠実性	4.03	0.57	3.94	0.46	3.93	0.63	3.97	0.56	0.37
調和性	4.38	0.61	4.51	0.72	4.34	0.79	4.39	0.71	0.53

* p<0.05

Table 6B 大学生の社会人基礎力3分類別(強み)各下位尺度の平均値とSD及び分散分析の結果

	アクションN=56		シンキングN=32		チームワークN=107		合計N=195		F値
	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	
創造力	3.19	0.83	3.28	0.68	2.99	0.71	3.10	0.75	2.44
行動力	3.51	0.81	3.33	0.65	3.15	0.72	3.28	0.75	4.51 *
適応力	3.35	0.84	3.05	0.71	3.21	0.79	3.22	0.80	1.51
情報力	3.20	0.82	3.23	0.54	3.08	0.64	3.14	0.68	0.87
論理力	2.83	0.83	2.98	0.67	2.75	0.74	2.81	0.76	1.17
傾聴力	3.41	0.78	3.31	0.82	3.56	0.74	3.48	0.77	1.59
常識力	3.59	0.77	3.38	0.56	3.59	0.57	3.55	0.63	1.55
就職能力	23.07	4.36	22.55	3.23	22.33	3.54	22.58	3.75	0.73
能動実践	3.70	0.65	3.58	0.67	3.50	0.59	3.57	0.62	1.86
自己創造	3.59	0.73	3.48	0.47	3.27	0.68	3.40	0.68	4.43 *
自他共存	3.77	0.74	3.59	0.60	3.74	0.65	3.73	0.67	0.76
無執着心	3.22	0.64	3.03	0.65	3.07	0.74	3.10	0.70	1.15
他者尊重	3.30	0.58	3.31	0.46	3.53	0.61	3.43	0.59	3.79 *
外向性	4.86	0.95	4.26	0.87	4.30	0.96	4.45	0.97	7.16 **
情緒不安	4.09	1.11	4.54	0.74	4.48	1.11	4.38	1.07	2.97
開放性	4.38	0.97	4.55	0.81	4.22	0.75	4.32	0.83	2.16
誠実性	3.97	0.75	3.90	0.60	3.93	0.56	3.94	0.63	0.15
調和性	4.42	0.77	4.26	0.69	4.61	0.74	4.49	0.75	3.14 *

* p<0.05

** p<0.01

両者の共通点は、①チームワークの能力を強みと考えている者が最も多い。②シンキングを強みとした者は、創造力、論理力といった「考える力」が最も高い。③シンキングを強みとした者は開放性が最も高い。両者の相違点は、①アクションを強みとした者は、高校生では就職能力の総合得点は、2 番目だが、大学生では最も高い。②アクションを強みとした者は、高校生では行動力、能動実践、外向性はシンキングを強みとした者の方が高いが、大学生では、いずれも最も高い数値である。③チームワークを強みとした者は、高校生では傾聴力、他者尊重、調和性は最も低い、大学生では逆に最も高くなっている。両者の共通点、相違点を整理してみると、高校生、大学生といった若年層は、チームワークに関連する力を自分の強みと考えている者が非常に多いが、現実には高校生レベルではまだチームワーク能力と呼べる力は身につけていない。また、アクションを強みと考えている高校生も同様である。ただ、シンキングを強みと考えている者は、高校生レベルから確かに創造力、論理力といった「考える力」には自信を持っているようである。これが行動力にも結びつき、高い就職能力を生み出していると考えられる。真の主体性、自発性、行動力、すなわち、アクションを身につけるためには「考える力」を先に鍛える必要があると思われる。

(3) 就職能力・価値観・性格のクラスタ分析

企業就職能力の下位尺度である創造力、行動力、適応力、情報力、論理力、傾聴力、常識力、価値観(生き方)の下位尺度である能動実践、自己創造、自他共存、無執着心、他者尊重、性格(BIG FIVE)の下位尺度である外向性、情緒不安定性、開放性、誠実性、調和性を変数に階層クラスタ分析(Ward 連結、平方ユークリッド距離)を行ったところ、5 つのグループに分類された(Figure 10A, Figure 11A, Figure 12A)。

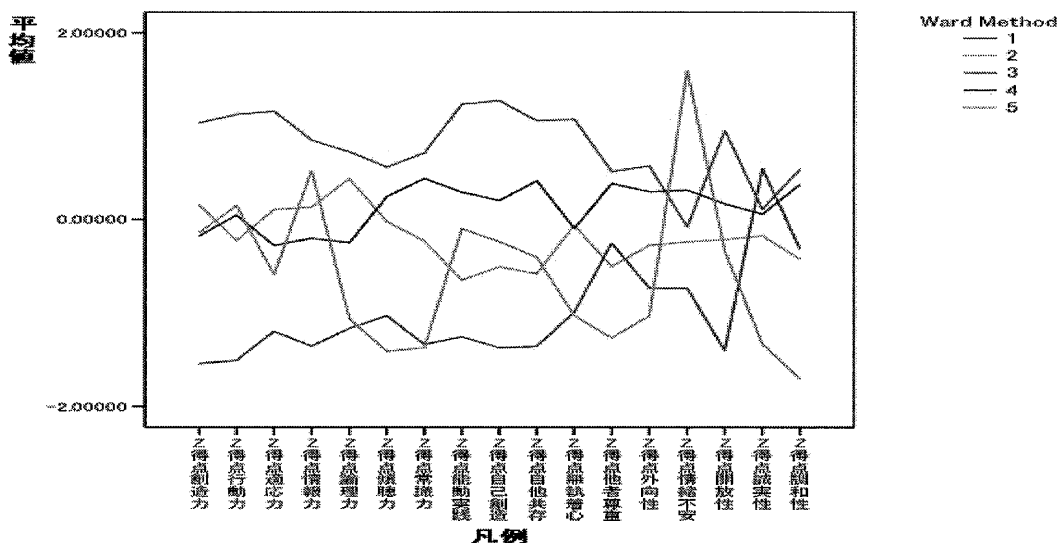


Figure 10A クラスタ別下位尺度得点 (高校生)

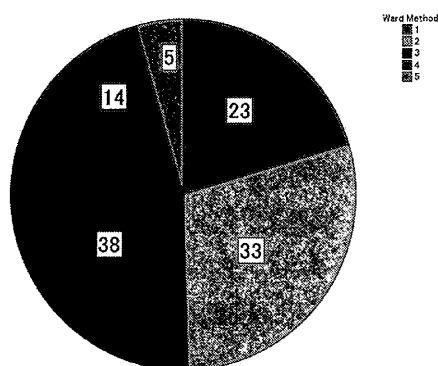


Figure 11A クラスター別人数（高校生）

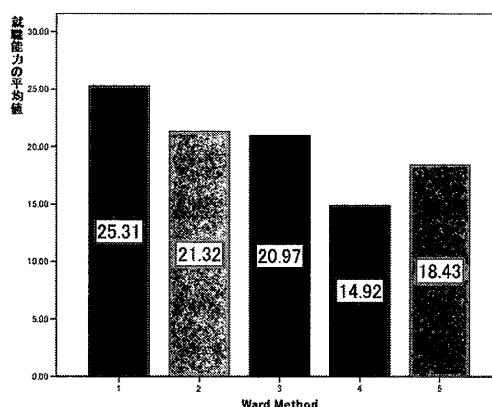


Figure 12A クラスター別就職能力（高校生）

就職能力、価値観(生き方)、性格(BIG FIVE)のほとんどの下位尺度得点が最も高く、情緒不安と誠実性が平均的な第 1 クラスター(N=23)を「積極行動型」、行動力、能動実践などアクションが平均以下だが、創造力、論理力などシンキングが平均以上の第 2 クラスター(N=33)を「消極思考型」、各下位尺度得点は全体的に平均的で、常識力が高く、自他共存、他者尊重、調和性など他者との関わりが気になる第 3 クラスター(N=38)を「常識協調型」、創造力、行動力や自己創造、開放性などが最も低い第 4 クラスター(N=14)を「意欲喪失型」、傾聴力や常識力は第 4 クラスターより低い、行動力や情報力は平均以上あり、能動実践や自己創造は第 2 クラスターより高く、他者尊重や調和性が最も低い第 5 クラスターを「自分勝手型」と命名した。

また、分散分析の結果を見ると、創造力、行動力、能動実践、自己創造、自他共存、開放性といったエンプロイアビリティの根幹を成す要素にクラスター間の格差が大きく出ている(Table 7A, Figure 13A)。就職能力面では、情報力、論理力、傾聴力に有意差が見られるものの、上記能力ほどの格差はない。換言すれば、意識付けやトレーニング等でまだまだ身につけることが可能な能力とも思われる。価値観(生き方)では他者尊重、性格(BIG FIVE)では調和性がそれらの要素が欠ける第 5 クラスターを除けば現代若者の共通した特徴と思われる。また、外向性や情緒不安が高いのも人間関係を重視している表れであろう(Figure 14A)。ただ、注目すべきは、誠実性に関して、平均値自体が低く、各クラスター間にも大きな差が見られない点である。特別進学コース以外の標準的学力の生徒にとって、少子化で入学試験も筆記試験ではなく、推薦入試や AO 入試などで入学が可能な大学が増えていることもあり、真面目、勤勉に勉強に励むこと自体がそれほど必要でなくなってきたことも影響があるように思われる。

Table 7A 高校生のクラスター別の各下位尺度の平均値とSD及び分散分析の結果

	①積極行動型N=23		②消極思考型N=33		③常識協調型N=38		④意欲喪失型N=14		⑤自分勝手型N=5		合計N=113		F値	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD		
創造力	3.68	0.70	3.02	0.33	2.77	0.52	1.76	0.26	2.80	0.99	2.91	0.75	31.22	***
行動力	3.99	0.47	3.01	0.50	3.21	0.49	2.07	0.27	3.28	0.94	3.17	0.73	34.51	***
適応力	3.78	0.58	3.02	0.38	2.75	0.59	2.09	0.27	2.52	0.89	2.95	0.72	26.98	***
情報力	3.34	0.48	2.95	0.36	2.76	0.43	2.13	0.40	3.16	0.68	2.87	0.55	18.74	***
論理力	2.98	0.53	2.79	0.42	2.34	0.63	1.73	0.39	1.80	0.45	2.50	0.66	18.35	***
傾聴力	3.51	0.61	3.12	0.48	3.30	0.52	2.45	0.61	2.20	0.96	3.14	0.66	11.94	***
常識力	4.03	0.41	3.41	0.51	3.85	0.46	2.69	0.44	2.67	0.62	3.56	0.65	26.23	***
就職能力	25.31	1.78	21.32	1.62	20.97	1.94	14.92	1.26	18.43	2.72	21.09	3.44	76.81	***
能動実践	4.40	0.48	3.07	0.33	3.73	0.37	2.64	0.59	3.46	0.42	3.53	0.70	53.52	***
自己創造	4.28	0.35	2.94	0.46	3.47	0.43	2.29	0.48	3.14	0.76	3.32	0.75	52.34	***
自他共存	4.38	0.62	3.19	0.34	3.92	0.30	2.63	0.51	3.32	0.92	3.61	0.73	44.88	***
無執着心	3.75	0.66	2.98	0.42	2.95	0.42	2.34	0.56	2.32	1.04	3.02	0.68	18.89	***
他者尊重	3.65	0.70	3.02	0.33	3.57	0.55	3.18	0.61	2.55	0.57	3.33	0.62	9.44	***
外向性	4.95	0.81	4.28	0.64	4.73	0.67	3.92	0.51	3.68	1.22	4.50	0.79	8.30	***
情緒不安	4.38	1.03	4.23	0.58	4.76	0.84	3.74	1.16	6.00	0.79	4.46	0.97	8.19	***
開放性	4.99	0.89	3.96	0.50	4.29	0.55	2.91	0.86	3.85	0.33	4.14	0.88	23.20	***
誠実性	4.03	0.60	3.87	0.44	4.00	0.50	4.27	0.67	3.22	0.61	3.97	0.56	4.00	**
調和性	4.78	0.80	4.10	0.38	4.66	0.58	4.17	0.48	3.18	1.14	4.39	0.71	11.70	***

** p<.01 *** p<.001

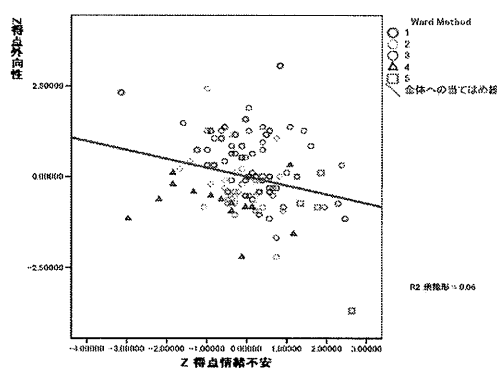
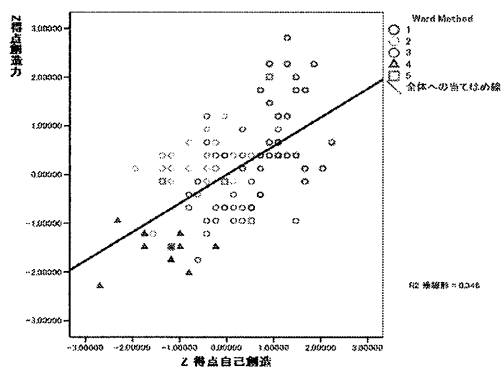


Figure 13A クラスター別創造力と自己創造(高校生) Figure 14A クラスター別外向性と情緒不安(高校生)

IV. 今後の課題

高校生の就職能力(企業就職能力)、価値観(生き方)、性格(BIG FIVE)を様々な角度から分析をしてきたが、分散分析からは、各尺度得点が大学生の得点と比較して総じて低いこと、相関分析からは、開放性、情緒不安、誠実性に関連する就職能力面からのキャリア発達は、大学生ほどまだ成熟していないこと、クラスター分析からは、就職能力等が極めて低く、勉学等への意欲があまり見られない生徒が2割近くいることなどが明らかになった。

こうした高校生の増加要因に、少子化にも関わらず、乱立気味にまだまだ新設される大学、定員割れを防ぐための推薦入試やAO入試が中心の入学制度などにより、特進コースの生徒以外は、自らモチベーションを高めて日頃から受験勉強をする必然性が乏しくなったことが挙げられる。大学生も含めて、創造力、論理力といった「考える力」の不足は、インターネット等における情報検索が発達し、すぐに情報・知識等を調べることができ、自身の身につける必要がなくなったこと、携帯等メールでのやり取りが日常の主流となり、直接対面するコミュニケーションの機会自体が少なくなってきたことなども見逃すことのできない環境変化要因である。

大学の初年次教育を含むキャリア教育で、未成熟なキャリア発達部分を支援しなければならない。そのためには、大学生のキャリア発達の現状把握はもちろんのこと、高校生のキャリア発達の現状をいち早く把握、分析・考察を行い、「移行問題」をスムーズに解消できるカリキュラム、プログラムの構築が必要である。

今回の調査対象は、普通コースの生徒、しかも高校2年生であった。同じ高校2年生でも、特進コースにおける生徒の就職能力、価値観、性格は当然相違した結果が出ると考えられる。また、高校3年生であれば、普通コースにおいても将来の進路選択を真剣に考える時期となり、各尺度得点はもう少し高くなると予想される。上記対象を含めた多様な高校で調査を行い、現代高校生の特徴がより一層明らかになれば、大学の初年次教育、キャリア教育にとって重要な示唆を与えるだろう。

[参考文献]

- (1) 中央教育審議会大学分科会制度・教育部会「学士課程教育の構築に向けて」2008年3月。
- (2) 寿山泰二「企業就職能力に見る大学生のキャリア発達」『日本キャリアデザイン研究 Vol.3』日本キャリアデザイン学会、2007年9月、15-29頁。